

平成17年国勢調査第1次基本集計結果

平成17年国勢調査（平成17年10月1日現在）の第1次基本集計（人口・世帯・住居・外国人等）結果が総務省から公表されましたので、川崎市分の概要を紹介します。

なお、用語の意味については、「用語の解説」（P46）を御参照ください。

1 人口総数

- 人口 1,327,011 人、増加率 6.2% -

平成17年10月1日現在の川崎市の総人口は1,327,011人で前回調査の12年に比べ77,106人、6.2%増加しました。

本市の国勢調査人口の推移をみると、大正9年（第1回調査）には85,189人でしたが、昭和15年には30万人を超え、終戦直後の22年に行われた臨時国勢調査では減少したものの、30年に40万人台、50年に100万人台となり、平成7年には120万人台、今回の調査では130万人台の人口となりました。

また、人口の増加率の推移をみると、昭和10年までは30%前後、15年は57%、終戦直後は減少したものの、25年には朝鮮戦争の特需景気を契機として戦後復興の軌道に乗り再び増加し、高度成長・所得倍増政策のもとで京浜工業地帯の中心である本市の産業は飛躍的な発展をとげ、技術革新の最先端を行く工場の新増設が活発に行われたことに伴い30～40年は40%前後と高水準が続きました。しかし、不況や環境悪化により45年から鈍化し、石油危機後の50年に初めて1桁台となり、55年には2.5%まで低下しました。その後、北西部の住宅開発などによる人口増により60年は4.6%、平成2年は7.8%と上昇傾向にありましたが、バブル景気が崩壊し、景気が低迷する中で行われた7年の調査では2.5%と低下し、大正9年以降、終戦直後を除くと、最も低い伸び率となりました。前回の12年には引き続き景気が低迷しているものの、社会増加（転入者数 - 転出者数）が逡増したことにより、再び3.9%と上昇しました。今回の調査では、増加率は6.2%となりましたが、これは、景気が僅かながら回復傾向にあり、住宅や土地価格の安定により、定住する者が増えたことが主な要因と思われます。（表1・図1）

図1 国勢調査人口と増加率の推移

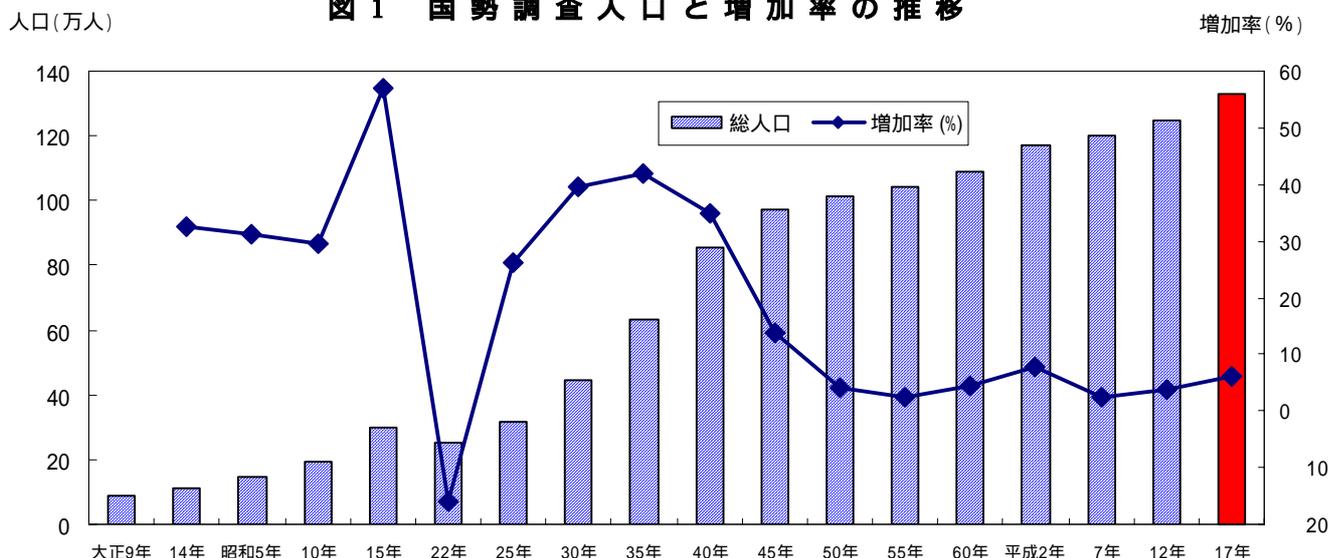


表 1 国勢調査人口の推移

年次別	総人口	男	女	性比	増加人口	増加率(%)	備考
大正 9年	85 189	43 454	41 735	104.1	-	-	第1回国勢調査
14年	113 034	58 180	54 854	106.1	27 845	32.7	第2回国勢調査
昭和 5年	148 165	76 483	71 682	106.7	35 131	31.1	第3回国勢調査
10年	191 700	99 820	91 880	108.6	43 535	29.4	第4回国勢調査
15年	300 979	165 673	135 306	122.4	109 279	57.0	第5回国勢調査
22年	252 923	133 714	119 209	112.2	48 056	16.0	第6回国勢調査(臨時)
25年	319 226	166 023	153 203	108.4	66 303	26.2	第7回国勢調査
30年	445 520	231 894	213 626	108.6	126 294	39.6	第8回国勢調査
35年	632 975	334 490	298 485	112.1	187 455	42.1	第9回国勢調査
40年	854 866	451 537	403 329	112.0	221 891	35.1	第10回国勢調査
45年	973 486	511 073	462 413	110.5	118 620	13.9	第11回国勢調査
50年	1 014 951	532 890	482 061	110.5	41 465	4.3	第12回国勢調査
55年	1 040 802	543 269	497 533	109.2	25 851	2.5	第13回国勢調査
60年	1 088 624	569 061	519 563	109.5	47 822	4.6	第14回国勢調査
平成 2年	1 173 603	617 425	556 178	111.0	84 979	7.8	第15回国勢調査
7年	1 202 820	629 804	573 016	109.9	29 217	2.5	第16回国勢調査
12年	1 249 905	649 997	599 908	108.3	47 085	3.9	第17回国勢調査
17年	1 327 011	687 080	639 931	107.4	77 106	6.2	第18回国勢調査

(注)平成17年の市域に組み替えた人口です。

- 全ての区で人口増加、人口密度は面積と反比例 -

各区の人口をみると、中原区が210,543人(構成比15.9%)で最も多く、次いで宮前区207,895人(同15.7%)、多摩区205,389人(同15.5%)、川崎区203,804人(同15.4%)、高津区201,792人(同15.2%)、麻生区153,101人(同11.5%)、幸区144,487人(同10.9%)の順となりました。前回調査の順位と比べると、前回2番目だった中原区が1番人口の多い区になり、代わりに前回1番目だった宮前区が2番目になりました。その他の順位は変わりませんでした。

昭和57年の分区以降に行われた調査の区別人口の推移をみると、昭和60年には川崎区、幸区、中原区の南部で人口の減少がみられたものの、平成2年には全ての区が増加となりました。7年には川崎区、幸区で人口が減少し、12年は減少幅が小さくなったものの再び両区で減少しました。しかし、今回の調査では川崎区、幸区も増加に転じ、全ての区で増加となりました。

また、全市の人口密度(人/km²)は9,193人で、前回調査より534人増加しました。区別にみると、幸区が14,320人(793人増)、中原区が14,216人(826人増)と面積が狭いこともあり非常に高く、次いで高津区11,801人(1,151人増)、宮前区11,177人(422人増)、多摩区10,073人(429人増)、麻生区6,625人(470人増)と続き、埋立地や大規模工場群をかかえている川崎区が5,063人(241人増)で最も低くなっています。前回調査と比べると、高津区が宮前区を抜き3番目になり、この順位は区別の面積と反比例する結果となりました。(表2・3・図2)

表 2 区別の人口等

区 別	面積 (km ²)	世帯数	人 口			対前回人口増加		1世帯 当たり 人員	人口密度 (人/km ²)	性 比 (女100人 につき男)
			総 数	男	女	計	率 (%)			
全 市	144.35	595 513	1 327 011	687 080	639 931	77 106	6.2	2.23	9 193	107.4
川 崎 区	40.25	94 099	203 804	108 866	94 938	9 713	5.0	2.17	5 063	114.7
幸 区	10.09	63 177	144 487	74 542	69 945	8 000	5.9	2.29	14 320	106.6
中 原 区	14.81	103 322	210 543	110 452	100 091	12 243	6.2	2.04	14 216	110.4
高 津 区	17.10	91 409	201 792	103 913	97 879	19 680	10.8	2.21	11 801	106.2
宮 前 区	18.60	84 555	207 895	105 169	102 726	7 855	3.9	2.46	11 177	102.4
多 摩 区	20.39	96 837	205 389	108 187	97 202	8 752	4.5	2.12	10 073	111.3
麻 生 区	23.11	62 114	153 101	75 951	77 150	10 863	7.6	2.46	6 625	98.4

(注)面積は川崎市の公表数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

- 高津区が分区以降初の人口増加率 1 位 -

各区の人口の増加率をみると、全ての区で人口が増加しており、高津区 10.8%（増加数 19,680 人）が最も高く 10%を超え、分区以降で初めて最も高い増加率となりました。次いで麻生区 7.6%（同 10,863 人）中原区 6.2%（同 12,243 人）幸区 5.9%（同 8,000 人）川崎区 5.0%（同 9,713 人）多摩区 4.5%（同 8,752 人）宮前区 3.9%（同 7,855 人）の順となりました。

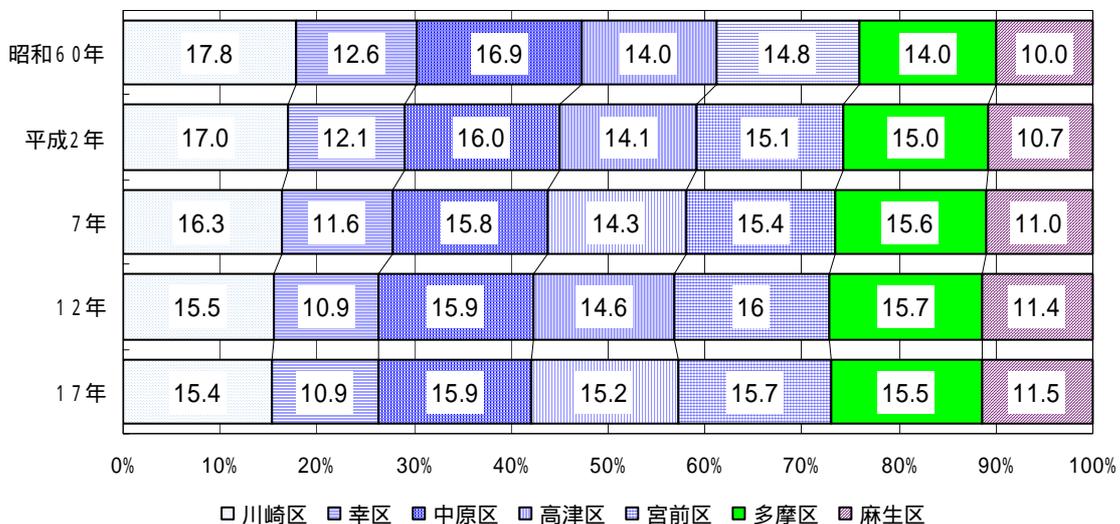
前回調査の人口の増加率（7 年～12 年）と比べると、幸区で 7.8 ポイント、川崎区で 6.1 ポイント上昇し、前回調査の増加率でマイナスを示した両区で大きく伸ばしました。その他の区では、高津区は 5.0 ポイント上昇し 10.8%となり、中原区では 2.0 ポイント上昇し、麻生区で単位未満の微増となりました。一方、前回調査の増加率が最も高かった宮前区は 3.9 ポイント低下し、多摩区は 0.6 ポイント低下しました。

また、区別人口割合の推移をみると、昭和 60 年には最も割合の高かった川崎区（17.8%）と、最も割合の低かった麻生区（10.0%）の差が 7.8 ポイントだったのに対し、今回の調査では最も割合の高かった中原区（15.9%）と、最も割合の低かった幸区（10.9%）の差は 5.0 ポイントと縮まっています。（表 2・3・図 2）

表 3 区別人口の推移

年次別	全 市	川崎区	幸 区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
	実 数 (人)							
昭和60年	1 088 624	193 954	137 306	183 455	152 726	160 575	152 255	108 353
平成 2年	1 173 603	200 056	142 320	187 707	165 081	177 742	175 570	125 127
7年	1 202 820	196 338	139 134	190 385	172 196	185 485	187 042	132 240
12年	1 249 905	194 091	136 487	198 300	182 112	200 040	196 637	142 238
17年	1 327 011	203 804	144 487	210 543	201 792	207 895	205 389	153 101
	増 加 率 (%)							
昭和60年	4.6	2.6	0.9	1.0	7.0	13.7	6.8	18.7
平成 2年	7.8	3.1	3.7	2.3	8.1	10.7	15.3	15.5
7年	2.5	1.9	2.2	1.4	4.3	4.4	6.5	5.7
12年	3.9	1.1	1.9	4.2	5.8	7.8	5.1	7.6
17年	6.2	5.0	5.9	6.2	10.8	3.9	4.5	7.6

図 2 区別人口割合の推移



- 人口総数は 15 大都市中第 9 位 -

前回の調査以降に政令指定都市となったさいたま市と静岡市を加えた 14 政令指定都市と東京都区部を含む 15 大都市について比較すると、東京都区部（8,489,653 人）が最も多く、次いで横浜市（3,579,628 人）が 300 万人を、大阪市（2,628,811 人）、名古屋市（2,215,062 人）が 200 万人を各々超えており、次いで札幌市、神戸市、京都市、福岡市、と続いて、本市は（1,327,011 人）9 位となりました。その次に、さいたま市、広島市、仙台市、北九州市、千葉市、静岡市の順となっています。

前回の調査と比べると、広島市（前回は 10 位）とさいたま市（前回は 11 位）、北九州市（前回は 12 位）と仙台市（前回は 13 位）の順位が各々入れ替わりました。

本市の 9 位というのは、昭和 60 年調査から同じ順位となります。（昭和 60 年調査で北九州市を抜いて 10 位から 9 位へ上がっています。）

また、本市の人口が、神奈川県人口（8,791,597 人）に占める割合は 15.09%（0.37 ポイント増）、全国人口（127,767,994 人）に占める割合は 1.04%（0.06 ポイント増）になりました。これは、全国のおよそ 96 人に 1 人は本市に住んでいる計算になります。さらに、大都市の合計は 30,497,044 人で、これは全国のおよそ 4 人に 1 人は大都市に住んでいる計算になり、いかに大都市圏に人口集中しているかがわかります。（表 4・5）

表 4 15 大都市の人口等

都市別	面積 (km ²)	世帯数	人口			人口 増加率 (%)	人口密度 (人 / km ²)	1世帯 当たり 人員
			総 数	男	女			
札幌市	1 121.12	837 367	1 880 863	889 054	991 809	3.2	1 678	2.2
仙台市	788.09	439 579	1 025 098	500 597	524 501	1.7	1 301	2.3
さいたま市	217.49	460 457	1 176 314	590 972	585 342	3.8	5 409	2.6
千葉市	272.08	373 766	924 319	462 961	461 358	4.2	3 397	2.5
東京都区部	621.49	4 146 481	8 489 653	4 210 749	4 278 904	4.4	13 660	2.0
川崎市	144.35	595 513	1 327 011	687 080	639 931	6.2	9 193	2.2
横浜市	434.98	1 478 104	3 579 628	1 803 579	1 776 049	4.5	8 229	2.4
静岡市	1 374.05	264 073	700 886	340 999	359 887	0.8	510	2.7
名古屋市	326.45	955 851	2 215 062	1 099 582	1 115 480	2.0	6 785	2.3
京都市	827.9	653 860	1 474 811	703 210	771 601	0.0	1 781	2.3
大阪市	221.96	1 245 012	2 628 811	1 280 325	1 348 486	1.2	11 844	2.1
神戸市	552.19	643 351	1 525 393	724 427	800 966	2.1	2 762	2.4
広島市	905.01	487 416	1 154 391	559 345	595 046	1.8	1 276	2.4
北九州市	486.81	413 510	993 525	466 779	526 746	1.8	2 041	2.4
福岡市	340.6	649 138	1 401 279	673 097	728 182	4.5	4 114	2.2

(注)面積は川崎市が独自で把握した数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

表 5 地域別の人口等

地域別	面積 (km ²)	世帯数	人口			人口 増加率 (%)	人口密度 (人 / km ²)	1世帯 当たり 人員
			総 数	男	女			
全 国	377 914.78	49 566 305	127 767 994	62 348 977	65 419 017	0.7	(1) 343	2.6
市 部	181 792.37	43 624 716	110 264 324	53 886 000	56 378 324	1.0	(1) 607	2.5
郡 部	195 025.66	5 941 589	17 503 670	8 462 977	9 040 693	1.7	(1) 92	2.9
神奈川県	2 415.84	3 591 866	8 791 597	4 444 555	4 347 042	3.6	3 639	2.4
大都市合計	8 634.57	13 643 478	30 497 044	14 992 756	15 504 288	3.1	3 532	2.2
大都市以外	369 280.21	35 922 827	97 270 950	47 356 221	49 914 729	0.1	263	2.7

(注)面積は川崎市が独自で把握した数値のため、総務省公表の数値とは一致しない場合があります。

(1)は 国勢調査令の規定に基づき、調査の対象から除外された地域の面積を除いて算出しています。

- 人口増加率は 15 大都市中第 1 位 -

15 大都市の人口の増加率をみると、本市は 6.2% で大都市中 1 位（前回 3 位）となり、大都市平均の 2.5% を大きく上回りました。大都市の中で増加率がマイナスだった都市は、北九州市（1.8%）と静岡市（0.8%）の 2 市のみとなりました。

全国の増加率は 0.7% で、大都市の中で全国の増加率を下回ったのは、マイナスだった 2 市の他は京都市（0.0%）のみとなりました。

本市が 1 位になったのは、昭和 40 年の調査以来となります。それ以前では、昭和 5 年から 15 年及び昭和 30 年から 40 年の年次で 1 位でした。

また、全国を地域別に分けて増加率をみると、市部と郡部では市部が 1.0% だったのに対し、郡部では 1.7% となりました。全国を大都市と大都市以外に分けると、大都市の合計（平均ではない。さいたま市、静岡市も含み、現在の市域に置き換えたもので比較。）では 3.1% だったのに対し、大都市以外の合計では 0.1% となりました。（表 4・5）

- 人口密度は 15 大都市中第 3 位、全国の約 27 倍 -

15 大都市の人口密度（人 / km²）をみると、本市（9,193 人）は、東京都区部（13,660 人）、大阪市（11,844 人）に次いで 3 番目に高い値となり、15 大都市の中でも上位に属しています。

また、人口密度を地域別にみると、全国は 343 人で対本市は約 27 倍、市部は 607 人で対本市は約 15 倍、郡部は 92 人で対本市は約 100 倍となっており、これらに比べると、いかに本市及びその他の大都市の人口密度が高いかがわかります。（表 4・5）

- 人口指数は 15 大都市中第 1 位 -

大正 9 年実施の第 1 回国勢調査の結果を現在の市域に組み替えた人口を 100 として、大都市の人口指数を比較すると、本市の値は 1,558（第 1 回調査の 15.58 倍）となり、15 大都市の中で最も高い値を示しています。

また、全国の値は 228（第 1 回調査の 2.28 倍）で、本市は全国の 6.8 倍にもなり、本市の人口集積の高さを示しています。（表 6）

表 6 15 大都市の人口指数

都市別	人口		人口指数 (大正9年 =100)	都市別	人口		人口指数 (大正9年 =100)
	大正9年	平成17年			大正9年	平成17年	
全 国	55 963 053	127 767 994	228	静 岡 市	245 854	700 886	285
札 幌 市	144 630	1 880 863	1 300	名 古 屋 市	677 452	2 215 062	327
仙 台 市	190 013	1 025 098	539	京 都 市	736 462	1 474 811	200
さいたま市	122 479	1 176 314	960	大 阪 市	1 786 627	2 628 811	147
千 葉 市	90 307	924 319	1 024	神 戸 市	746 254	1 525 393	204
東京都区部	3 358 186	8 489 653	253	広 島 市	305 773	1 154 391	378
川 崎 市	85 189	1 327 011	1 558	北 九 州 市	433 185	993 525	229
横 浜 市	562 304	3 579 628	637	福 岡 市	239 956	1 401 279	584

(注)平成17年の市域に組み替えた人口です。